

果実生育定期調査から読み取れる特徴と今後の管理

1 リンゴ

9月後半は最低気温が15℃を下回る日が多く、日照時間は平年より多かったことから、「やたか」の着色は良好で、収穫期は平年より3日早く9月26日であった。果実肥大は幼果の時から平年より小さく推移しており、収穫時でも平年の93%と小さくなった。また、リンゴ酸含量は8月1日の調査から低い傾向が続いており、収穫時にも平年の87%と低かった。

「王林」、「ふじ」の果実肥大は平年並みであったが、糖度の上昇が停滞気味となり平年よりやや低くなった。硬度はこれまでほぼ平年並みに経過してきたが、今回の調査では平年よりやや低くなった。一方、リンゴ酸含量は、8月1日の調査開始時点から低く経過している。このようなこととデンプン消失程度（データ未掲載）から成熟は平年よりやや早いとみられる。

県北部の果実肥大は「王林」は側果の割合が高いため平年を下回っているが、「ふじ」「秋田紅あかり」は、ほぼ平年並となっている。各品種とも、依然としてリンゴ酸含量が高く、糖度は各品種とも平年並～やや高い傾向にある。硬度は「秋田紅あかり」で平年よりも低い傾向にあるが、その他は平年並～やや高い。「秋田紅あかり」の着色は平年並みなので、10月上旬までには摘葉を行い、反射資材を敷設、枝つりや支柱かけを行うようにする。

2 ニホンナシ

「豊水」及び「あきづき」の収穫始めは、それぞれ9月27日、9月29日で平年よりも5～6日遅かった。肥大は、両品種とも生育期間を通じて平年よりも小さく経過した。地色は平年よりも進んでいるが、硬度、酸度は平年よりも高く果実の成熟はやや遅れている。

「秋泉」の肥大は平年並みで、糖度、地色の抜けがほぼ平年並みであることから収穫は地域によってはすでに始まっている。

3 ブドウ

「巨峰」、「シャインマスカット」はすでに収穫期に入ったが、平年より3～7日の遅れとなった。果実品質はほぼ平年並みであったが酒石酸含量の減少が遅れ、やや高い傾向にあった。

「スチューベン」は酒石酸の減少は平年並みであるが、糖度が平年より低く、収穫期は10月上旬と予想さる。

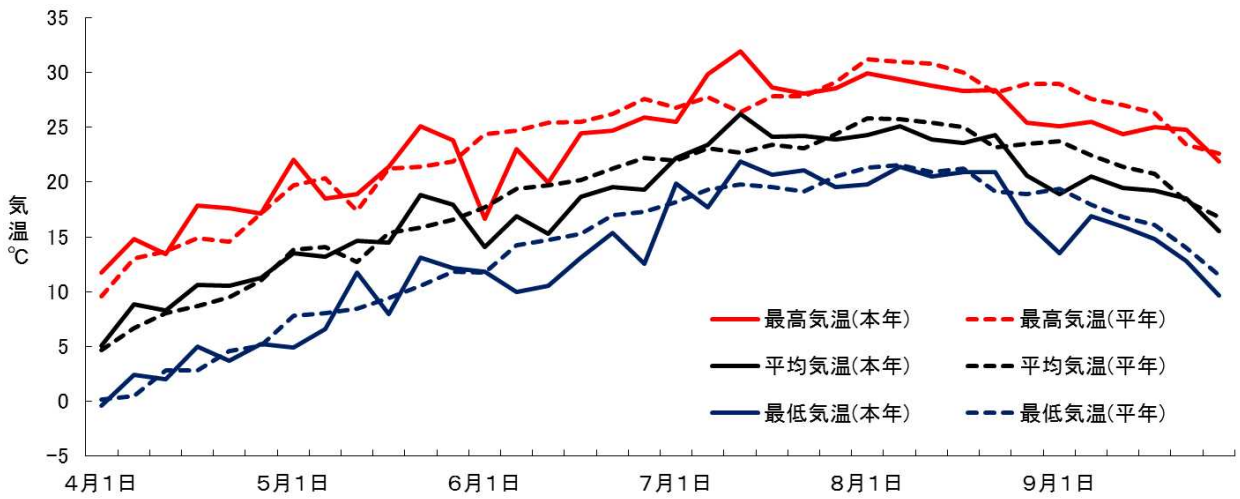


図1 最高・平均・最低気温と平年比較（果樹試験場本場）

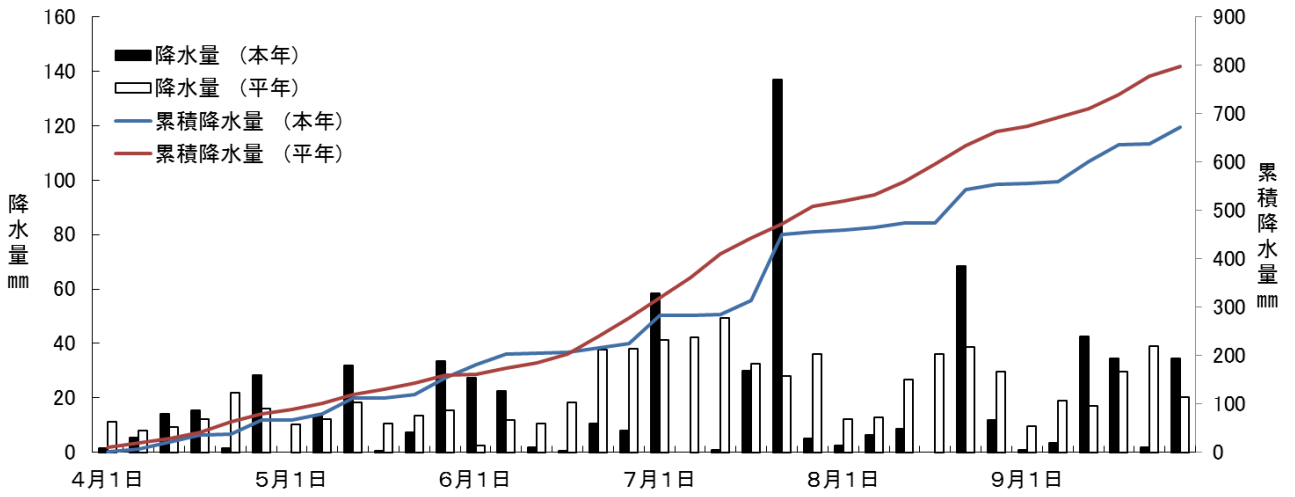


図2 降水量と累積降水量の平年比較（果樹試験場本場）

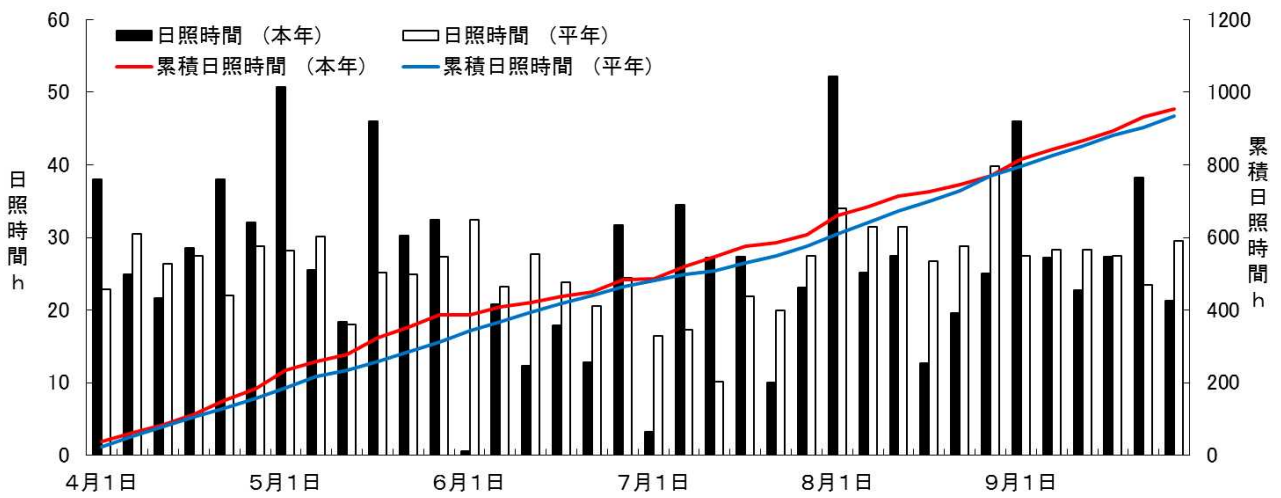


図3 日照時間と累積日照時間の平年比較（果樹試験場本場）